

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 12月分

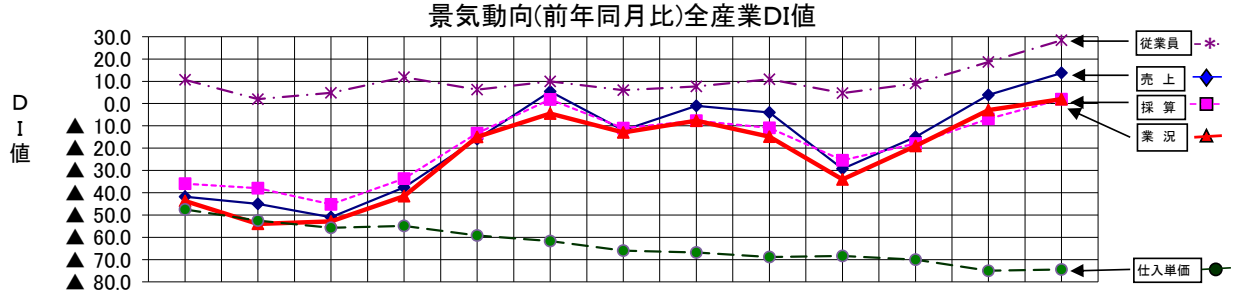
【12月の概要】

業況判断DIは全ての項目で改善するも、先行き見通しは悪化傾向
原油・原材料高騰の影響とオミクロン株による感染拡大への懸念大

業況判断を示すDI値は、すべての項目で改善した。特に売上については前月比で9.8ポイントと高い伸びとなり、売上・採算・業況DIは3ヵ月連続で上昇し、プラス圏内に。一方、仕入単価は▲70ポイント台を維持し、厳しい状況となっている。

先行き見通しについては、売上・採算・業況DIで10ポイント以上の下落となっており、オミクロン株による再度の感染拡大を懸念する動きが広がっている。

日本国内の感染が落ち着いているが、引き続き、感染防止対策の徹底と経済活動の両立が求められる。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2020年12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	2021年12月
売上	▲41.8	▲45.0	▲51.0	▲37.6	▲15.9	5.4	▲12.0	▲1.0	▲4.0	▲29.3	▲15.0	3.9	13.7
採算	▲35.9	▲38.0	▲45.2	▲33.7	▲13.3	1.8	▲11.0	▲7.7	▲10.9	▲25.5	▲18.0	▲6.9	2.0
業況	▲43.7	▲54.0	▲52.9	▲41.6	▲15.0	▲4.5	▲13.0	▲7.7	▲14.9	▲34.0	▲19.0	▲2.9	2.0
仕入単価	▲47.5	▲52.5	▲55.7	▲54.9	▲59.2	▲61.7	▲66.0	▲66.8	▲68.8	▲68.4	▲70.0	▲75.0	▲74.5
従業員	10.7	2.0	4.8	11.9	6.2	9.9	6.0	7.7	10.9	4.7	9.0	18.6	28.4

- ・マイナスからプラスに転じたDI値：採算8.9ポイント、業況4.9ポイント
- ・プラス幅が増加したDI値：売上9.8ポイント、従業員9.8ポイント（人手不足局面へ）
- ・マイナス幅が減少したDI値：仕入単価0.5ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
10月	1.0	▲17.0	▲11.0	▲46.0	15.0
11月	2.0	▲10.8	0.0	▲47.1	17.7
12月	▲11.8	▲21.6	▲15.7	▲41.2	24.5

- ・見通しが改善したDI値：仕入単価5.9ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：売上▲13.8ポイント、採算▲10.8ポイント、業況▲15.7ポイント、従業員6.8ポイント（人手不足局面へ）

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	管工事	新たな感染拡大への不安と、原油高騰・ウッドショック・メタルショック等で製品製造ができず影響が大きい。
	ガス設備	受注が順調に回復していたが、オミクロン株の発生が懸念材料である。
製造業	製菓	原材料、燃料等広範囲に値上げが続く。価格転嫁も難しい。
	鉄工	賃金引上げの方針が発表されたが、現状では4%UPは難しい。何らかの減税対策等を要望する。
卸売業	建設資材	原材料の高騰に苦しんでいる。また、在庫商品の不足が発生している。
	青果	需要回復傾向が見られたが、野菜の数量減少、単価の値上りから、業績は厳しい見通し。
小売業	百貨店	消費回復には至っていない。昨年は年末年始の大雪の影響を受けた。今年は盛り返しを図りたい。
サービス業	建築設計	ウッドショックや半導体不足による影響で現場作業に遅れが出ている。
	タクシー	忘年会の時期だが、金曜日だけの賑わい。新たな変異株の出現で、景回復に向けて再び危機感が生じている。
	不動産	不動産が一挙に動き出した。今後期待できるが資材高騰も凄まじく、人手不足も目立つ。